

小山市立博物館

博物館だより

2022
8.15

75

第77回企画展

『小山市埋蔵文化財保護行政45年の歩み』

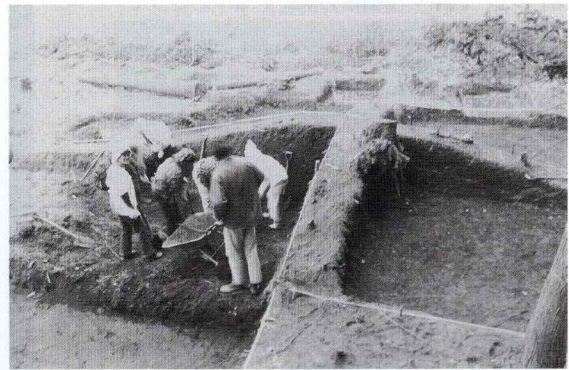
令和4年10月8日(土)～11月27日(日)

本年は、小山市が埋蔵文化財(遺跡)調査の基本資料である『小山市遺跡分布図地名表』の調査・作成に着手してから45年の節目の年に当たります。

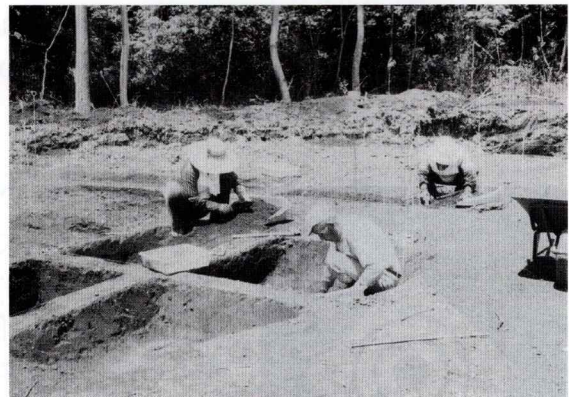
調査は、専門の調査員が小山市全域を歩いて遺物の散布状態を把握し、その結果を地図に記したもので、市内に存在する埋蔵文化財を正確に把握するとともに、開発による消滅を未然に防ぎ、文化財保護・活用に資することを目的としたものです。『小山市遺跡分布図地名表』の作成により、本市は現在、栃木県はもとより、関東でもトップクラスの調査体制を誇る組織となっています。

今回の企画展では、これまでの組織の変遷や発掘調査の成果をまとめ、各時代を代表する優品を展示して、遺物・遺構による小山市の歴史の変遷を解説します。また、史跡指定や整備活用に至るまでの経過もパネル展示し、史跡の重要性と整備の意義を周知したいと考えています。

埋蔵文化財は、小山市の原点を探る貴重な資料です。この企画展により、来館者の皆様に埋蔵文化財の重要性がより強く認識され、調査の必要性が普遍的なものとなるよう切望します。



乙女北浦家発掘調査の様子(S52年度)



八幡根東遺跡発掘調査の様子(S63年度)

【開館時間】 9:00～17:00(最終入場時間16:30)

【入場料】 大人200円(100円)、大学・高生100円(50円)、小中学生無料

※()内は20人以上の団体料金

※おやまミュージアム割引実施(車屋美術館入館券半券提示で団体料金適用)

【休館日】 毎週月曜日(祝祭日を除く)・第4金曜日・祝日の翌日(土・日、祝祭日を除く)

【関連講座】 申し込みは電話で、10/8 9:00～開始。先着順にて受付。定員なり次第〆切。

1. 講座「拓本をとってみよう」11月5日(土)10:00～11:30

定員:16名/場所:体験学習室/対象:中学生以上。

2. 記念講演会11月19日(土)13:30～15:00

「わが国における文化財(考古学)資料の認識と調査・保護のあゆみ」

—栃木県での経験とともに—

講師: 国士館大学文学部教授 眞保昌弘氏

定員:30名/場所:視聴覚室/対象:高校生以上。

小山の弓矢と伝統行事

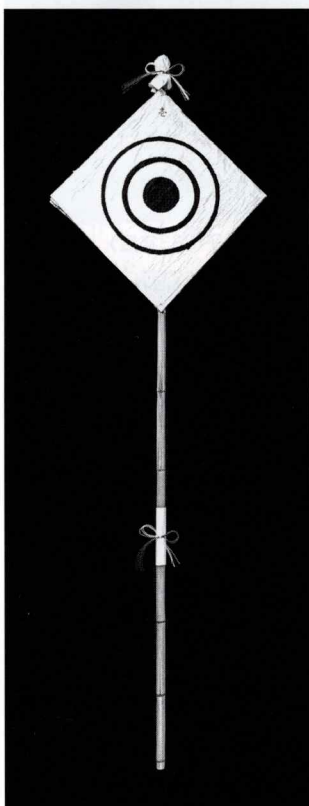
■鬼滅の…弓矢？

収蔵庫にある迫力満点の鬼の面。小山市の指定文化財でもある白鳥八幡宮の古式祭礼、その儀式の1つ「鬼面射弓」で使われたものです。この鬼面射弓では、文字通り、鳥居に括られた鬼の面に矢を放ちます。正月に鬼を成敗して、新しい1年の魔除けとするのです。

鬼の面は角を含めて高さ157センチとかなり大型。真っ赤に塗られた肌に、金紙で輝く角や牙。大きなクマとギョロとした金の眼玉。その不気味ながらも強烈なインパクトは右の写真でもお分かりいただけることでしょう。

それにしても、なぜ弓矢で鬼を倒すのでしょうか。武器は色々ありますが、節分なら豆でも鬼は倒せます。ですが、

弓矢には魔除けの特別な力があると考えられてきたのです。例えば、正月に「破魔矢・破魔弓」を買ったり、家を建てた際に開く上棟式で鬼門の方向に大きな矢を立てたりするのは、弓矢に魔を打ち破る力があるとしてきたからこそと言えます。



■弓矢で占う、「当たり」か「はずれ」

さて、他の弓矢を使った行事にも注目してみましょう。左の写真は、篠塚稻荷神社の初午祭で披露される流鏝馬の的（うまじりし）です。先ほどの行事は地面に立って矢を放つ「歩射」でしたが、流鏝馬は馬に乗ったままの的を狙う「騎射」と呼ばれるスタイルをとります。馬の高さに合わせて、的は長さ3メートルの竿に括りつけてあります。的に描かれた一番中央の黒丸は直径がわずかに15センチ。弓を射る方の腕の見せ所です。

写真ではわかりにくいですが、この的の上端には「壺」の文字があります。的は全部で3枚立てられ、そのうちの1枚目がこの的ということです。3枚の的はそれぞれ、早稲・中稲・晩稲を意味しています。矢がどの的にどのように当たるかで、各時期の米の出来具合を占うのです。

こうした弓による占いは、養蚕の出来を占う高橋神社のアサマド祭りや、稲の播種や田植えに適した時期を占う大川島神社の弓引き祭りなどでも見られます。当たるかはずれるか分からない弓射は、運勢を決める神様の「気まぐれさ」に通じるところがあったのでしょうか。

流石は石器時代から続く道具だけあって、弓矢の文化には奥深さを感じます。こうした弓矢を使った行事が身近なところにもあるかもしれません。ぜひ探してみてください。

栃木県立博物館
地域移動博物館

「鉱物教室」～あなたの好物 どの鉱物～

令和4年7月23日(土)～8月28日(日)

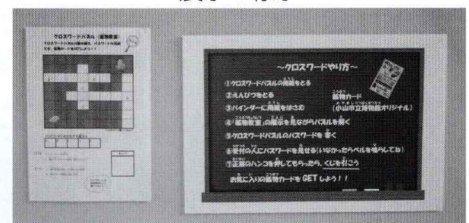
“鉱物”という言葉に、馴染みのある人は少ないかもしれませんが。しかし、私たちの身のまわりには、鉱物から作られているものが数多くあります。例えば、電化製品に使われている銅線の銅は、黄銅鉱とよばれる鉱物から得られます。また、私たちが身につける装飾品にもさまざまな鉱物が使われています。

今回の展示では、私たちの生活に深く関わっている鉱物について、そもそも鉱物とは何か、どんな特徴があるのかなど、展示を通じて多くの方々に知っていただきたいと思い、「鉱物教室」と題して、生活に使われる鉱物や絵具に使われた鉱物など、テーマに沿ってご紹介しました。

また、小さな子どもたちにも鉱物について興味を持ってもらえるように、紫外線を照射し鉱物を発光させる体験コーナーや展示を見ながら解くクロスワードパズルも用意しました。クロスワードパズルの正解者には当館オリジナルの鉱物カードを配布し大変好評でした。今回の展示が、鉱物の魅力を改めて感じていただけるきっかけになればと考えています。



展示の様子

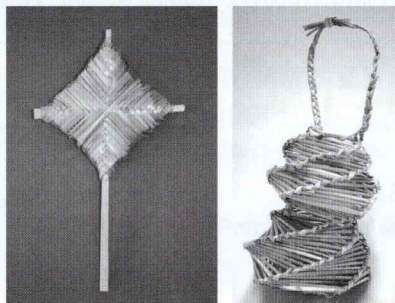


クロスワードパズルと「鉱物カード」

講座紹介 ビール麦は小山の特産品

7月9日(土)、博物館友の会のみなさんを講師に迎え、毎年恒例になっている「麦わら細工教室」を実施しました。今年は市内の農家さんからいただいたビール麦(二条大麦)のワラを使って「ガラガラ」と「ほたるかご」作りに32名の参加者が挑戦しました。

ガラガラは振ると音の出る玩具で、十字に組んだ割りばしの骨組みにワラをからめて編んでいくもので、比較的簡単に作ることができます。一方ほたるかごは微妙な手の加減だけで形を作っていくので、初心者には難しく、今年もほたるかごは挑戦するだけの方がほとんどとなりました。これまで、古くからの編み方にこだわってきましたが、来年はその方法を基本に少し工夫を凝らし、初心者でも形にできる編み方を考えてみようと思います。このままでは消えてしまいかねない小山に古くから伝わる子どもの素朴な手あそびを、この先も永く伝承し続けていくためにも、もっと多くの方に麦わら細工に親しんでいただき、その楽しさを味わっていただけるよう、さまざまな面から講座内容を改善し継続していこうと思います。



講座で作る
左：「ガラガラ」・
右：「ほたるかご」



ほたるかごは麦わら3本から編みはじめます。

コラム 博物館職員雑記 “わくわく ときどき”のシャッター・チャンス

社会教育指導員 青木清治

16年ぶりに小山市立博物館で勤務できることになった。久しぶりに思い切ってカメラに触れると思うと、じっとしてられない。カメラに出会ったのは、小学高学年。母方の祖父にもらったもので、当時は何をとるという目的もなく、シャッターを切っていた気がする。最初は白黒フィルム、その後カラーフィルム、スライド用フィルム、そして今やデジタルデータ。時代とともに変化してきた。そんな中、以前、4年間当館に勤務する機会を得た。自然関係の資料を写真データとして残すべきという大義名分で、当時出始めのデジタルカメラを買った。使っていくうちに、便利さにとりつかれた。一眼レフデジタルカメラも買った。生まれて初めて国蝶のオオムラサキを見て感動し、すぐにシャッターを切った。その後何回もオオムラサキに出会いシャッターを切ったが、最初の1枚が今でも一番良い出来である。不思議である。たぶん感動しながらも無心でシャッターが切れたのである。その後は“欲”が出てきてしまう。

さて、そんな“わくわく ときどき”でのシャッター・チャンスをまた味わえる機会が訪れた。つい先日、ある貯水池に行った。この貯水池は約20年前に整備され、その時以来であった。なぜか多くのカメラマンが周りにいた。水面をハスやヒシが埋め尽くし、その中をバンの親子やカイツブリが泳いでいる姿を自分も気持ちよくシャッターを切った。連写の心地よい音を聞

きながら。そこにオオヨシキリがヨシの枝をよじ登り始めた。『いいぞ、きたきた』と思いながらシャッターを切った。こんな気持ちでじっくりと見ながらのシャッター・チャンス、久しぶりであった。さらに、周りの人に何を狙っているのかを尋ねると、「ヨシゴイの子育てと飛翔を狙っている。」とのことであった。ヨシゴイは、まだ実物を見たことも写真に収めたこともなかった。ところが、時間としてはあまり巢から出てこない時間になってきたとのこと。まあ、あまり期待しないで、場所だけ見るつもりでカメラを移動させて構えてみた。なんと、ファインダーをのぞいているとその画面にヨシゴイが入ってきた。久しぶりの“わくわく ときどき”でのシャッター・チャンスが訪れた。その後も、何回かヨシの枝やハスのところにとまった。太陽の順光に照らされた淡い色のヨシゴイ。感動の出会いとの楽しいシャッター・チャンスだった。次回、さらに“欲”を出してベストショットを狙いたいものである。



🐦 博物館公式ツイッター(Twitter)をご利用ください。

展示会や講座、ほっしー★OYAMA号の観望会情報など、博物館に関わる情報を発信しています。

アカウント名：小山市立博物館 ユーザー名：@Oyama_Museum

URL: https://twitter.com/Oyama_Museum



アイコンは
ほっしーです

※本アカウントは情報発信専用です。お問い合わせは下記の電話番号やHPのお問合せフォームをご使用ください。

寄贈者芳名

次の方々から貴重な資料をご寄贈いただきました。厚くお礼を申し上げます(敬称略)

■茂田 アイ(小山市) 参考図書3冊

■渡辺 成美(小山市) 教科書(大正～戦前期)34冊

■古川祐見子(小山市) 古文書一式

■江連 祐司(小山市) 蚊帳1張・子ども晴れ着一式

発行年月日 令和4年8月15日

発行 小山市立博物館 (JR宇都宮線間々田駅西口下車徒歩10分)

〒329-0214 栃木県小山市乙女1-31-7

電話 (0285) 45-5331 FAX (0285) 45-5247

H P <https://www.city.oyama.tochigi.jp/site/hakubutukan/>

印刷 株式会社ダイサン小山

